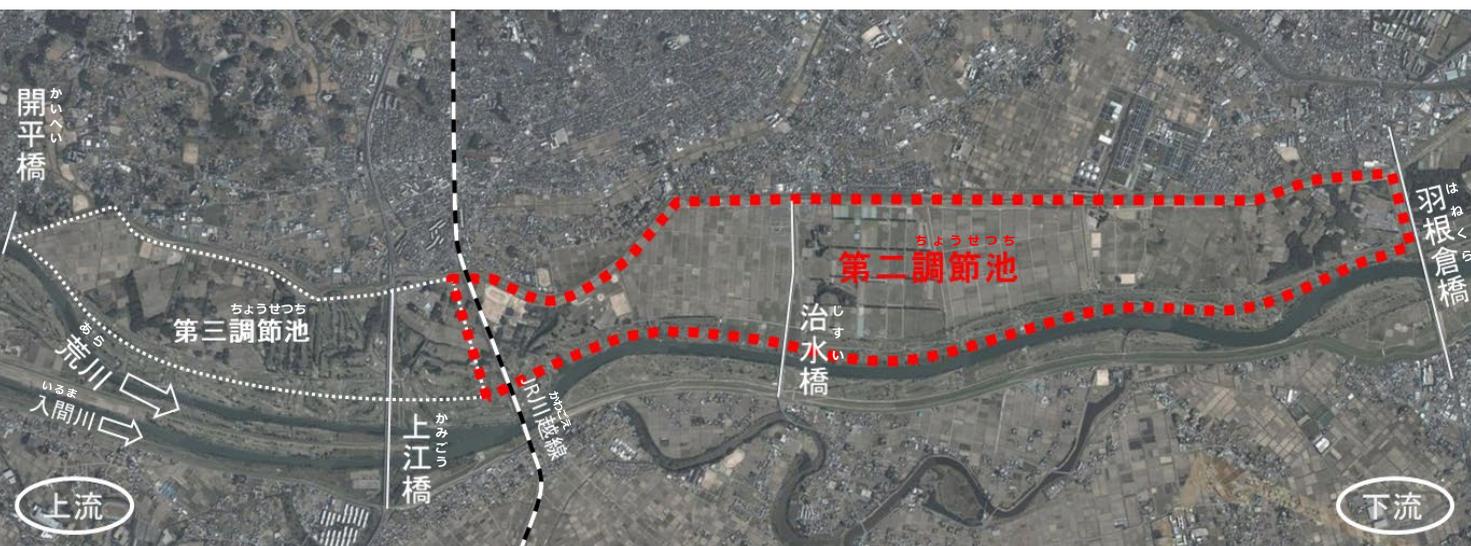


荒川第二調節池に架かる橋

荒川第二調節池には、3つの橋が架かっています。



上空から見た荒川第二・三調節池



JR川越線 荒川橋りょう



上江橋



羽根倉橋

荒川第二・三調節池に架かる橋

荒川第二調節池は、荒川第一調節池上流の羽根倉橋からJR川越線荒川橋りょうの上流付近までの区間の河川敷に整備します。この区間には、羽根倉橋・治水橋・JR川越線荒川橋りょうの3つの橋が架かっています。

荒川第二・三調節池の始点 羽根倉橋

羽根倉橋は、埼玉県さいたま市桜区下大久保と志木市宗岡の間に架かる国道463号（浦和所沢バイパス）及び埼玉県道215号宗岡さいたま線の橋です。

荒川に初めて架けられたのは、1938（昭和13）年。秋ヶ瀬橋改修の際の古材を利用し、木製の仮橋が架けられました。1954（昭和29）年には、仮橋からの架け替えが行われ、当時は冠水橋で、水没しても漂流物が橋を壊さないつくりになっていました。現在の羽根倉橋（鉄筋コンクリート製）が完成したのは、1973（昭和48）年のことです。

羽根倉橋右岸側のすぐ近く、志木市宗岡には、羽根倉古戦場跡があります。この辺り一帯は、南北朝時代の1351（観応2年）年12月9日、難波田（富士見市下南畑）城主、難波田九郎三郎と高麗（入間郡日高町）の住人高麗彦四郎経澄とが対戦した場所とされています。現在、周辺は運動場などとして利用されていますが、「羽根倉古戦場跡」碑や看板があり、歴史を知ることができます。

羽根倉橋の周辺は、堤防の高さが不足している状態であるため、2021（令和3）年現在、堤防のかさ上げが行われています。



羽根倉橋



羽根倉古戦場跡

▶ 「治水翁」の功績から命名された治水橋

治水橋は、埼玉県のさいたま市西区二ツ宮と飯田新田の間に架かる、埼玉県道56号さいたまふじみ野所沢線の道路橋です。かつてはトラス橋が架かっており、現在は道路照明灯に、そのミニチュアが付いています。

この治水橋は、荒川河川改修にも尽力し、埼玉県の治水事業の基盤を築いた政治家として「治水翁」と称される、斎藤祐美の功績により命名されました。現在も、橋のたもとは功績をたたえる彰功碑が建っています。

治水橋左岸周辺は、局所的に堤防が低く洪水時には越水のおそれがあります。そのため、堤防のかさ上げと同時に、県道56号横断箇所には暫定的な対策として、堤防の代わりとなる陸閘と呼ばれるゲートを設置し、越水を防止するための対策工事を2021（令和3）年現在実施中です。

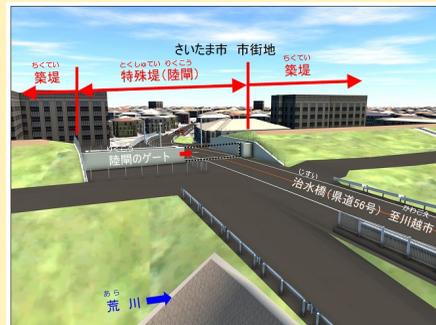
陸閘は堤防の代わりとなる鋼製のゲートで、平常時は県道56号が通行出来るよう開けてありますが、洪水時にはゲートをスライドさせて閉鎖し、洪水をせき止めて住宅側にあふれないようにします。



治水橋の道路照明灯



彰功碑



陸閘完成イメージ図

▶ 川越市内で一番長い鉄道橋りょう JR川越線 荒川橋りょう

JR川越線 荒川橋りょうは、JR川越線「南古谷駅」と「指扇駅」の間に位置する、鉄道の橋りょうです。全長約800mと川越市内で一番長い鉄道橋りょうで、川越景観百選にも選ばれています。列車を安全に、またダイヤどおり運行するため、川を抜ける風から列車を守るための防風柵が設置されていたり、橋げたが太く補強されていたりします。

このJR川越線 荒川橋りょう周辺は、堤防の高さや幅が不足しており、右岸側の橋の桁下高さは、計画高水位よりも約1m低くなっています。また、左岸側、右岸側の堤防は計画堤防高よりもそれぞれ約2.3m、約2.8m低くなっています。そのため荒川第二・三調節池の整備と合わせて、堤防の整備と橋の架け替えを行います。



JR川越線と荒川橋りょう

アクセス

羽根倉古戦場跡

交通：東武東上線「志木駅」下車、国際興業バス「宿」行き「宗岡蓮田」下車、徒歩約10分
住所：埼玉県志木市宗岡

治水翁の碑

交通：JR「大宮駅」下車、西武バス「馬宮団地」「ららぽーと富士見」「所沢駅東口」行き「治水橋堤防」下車、徒歩約5分
住所：埼玉県さいたま市西区飯田新田122

JR川越線 荒川橋りょう

交通：JR「大宮駅」下車、西武バス「川越グリーンパーク」行き「本郷浦」下車、徒歩約14分
住所：埼玉県川越市古谷本郷



羽根倉古戦場跡、治水翁の碑、JR川越線荒川橋りょう